自治労・東学ニュース

東京都学校事務職員労働組合（東学）　新宿区西新宿２－８－１　都庁第２本庁舎３２階
（ガイドブックと事務職員特集号）　２０２４年3月２５日　NO.６６８

「教職員のためのコミュニケーションガイドブック」と事務職員

都教委は、３月７日「教職員のためのコミュニケーションガイドブック」を公表しました。若手教員５，２８０名のアンケート回答をもとに「若手教員がもつ価値観や考えに触れつつ、コミュニケーションのとり方」について、案内してあります。背景としては、新規採用教員の１年以内退職率（４．４％）や教員の休職率（精神疾患による求職者数８２４名、その他の休職者数１７３名、精神疾患の割合１．２４％）の増加傾向があります。教員が抱える悩みとしては、「業務負担」と「職場の人間関係」に関するものが多いとされています。

「教職員」と言いながら、事務職員のことが抜け落ちている

学校では、事務職員は少数派、多くが１名配置校で、孤立しがちの状態に置かれがちです。「学校における働き方改革」もそうなのですが、「学校」と言ったり「教職員」と言ったりしながらも、その内実は教員のことになっています。小中学校の事務職員は、学校で少数でも、東京都全体では約１８００名もの数にのぼります。決して、少数ではありません。

正確なことは分かりませんが、以下に事務職員の場合を、教員との違いを推測してみます。

事務職員の「価値観」や「考え方」を知れば、教員との違いが分かります

特徴１．事務職員になりたいと思った理由は？
⇒　教員のように「子どもが好きだから」という理由もあるかと考えますが、小中学校での採用は、「偶然」や「たまたま」ではないでしょうか。東京都の採用試験を受け、東京都に採用されると考えていたが、たまたま小中学校に配置されたのではないでしょうか。学校を希望して、事務職員となった人は、少ないのではないでしょうか。事務職員は、東京都から給料をもらっている区市町村の職員です（教員も同じ）。

特徴２．やりがいや満足は？
⇒　児童・生徒と直接に接触する機会が少ないので、「児童・生徒の成長」ということではなく、予算を編成・執行した、学校行事で購入した物品が活用されている、年末調整をやりとげたとか、事務の執行がうまくいった時などではないでしょうか。

特徴３．【プライベート優先】の時代
⇒　仕事よりプライベートを優先する傾向は、事務職員でも同じではないでしょうか。

「若手事務職員が働き続けられる職場」とは

４．働きやすい職場＝人間関係が良好な職場
⇒　人間関係や雰囲気やよいことは、働き続けるうえで重要です。悩みや困りごとについての相談や正当な評価については、上司が校長・副校長という教員出身者のため、事務職員の職務や勤務条件については、あまり理解されていないという現実もあります。仕事についても、給食費等の私費会計を担うことの大変さや問題をあまり理解せず、事務職員に担わせようとする事例も出てきています。新規採用者とベテラン事務職員とでは、担う職務が異なることも、ある程度やむを得ないことです。

若手事務職員と信頼関係を築くためのヒント

５．先輩や上司には相談しやすい雰囲気が求められている
⇒　教員出身の上司である校長・副校長には、相談しやすい雰囲気が求められます。事務職員の場合は、近隣の学校の事務職員や事務職員会、区市の教育委員会が相談相手となることが多いと思います。学校で１人で孤立しがちな事務職員のために、事務職員会での支援の体制をとっている地区もあります。

６．若手事務職員は悩んでいる
⇒　事務職員の職務は、給与、旅費、福利厚生や予算・経理、施設管理などです。若手事務職員にとって、まずは仕事を覚えることが先決です。

７．感情的、高圧的な態度をとる先輩や上司は尊敬されない
８．先輩・上司から「頑張ってるね」「ありがとう」等の声かけが仕事の励みに！
９．先輩・上司からの言葉や態度で落ち込むことも
１０．コミュニケーションの具体例
⇒　事務職員も教員と同じです。

心の不調への対応と支援　事務職員は教員より精神疾患による休職者の割合が高い

東京都における教員の精神疾患による病気休職者数は、８２４名で１．２４％です。事務職員等は、６２名１．５０％です。事務職員の方が、教員より割合が高くなっています（文部科学省調査）。原因はいろいろと推測できるのですが、１人で孤独だということではないでしょうか。相談できる相手も少なく、一人で仕事を抱え込んでしまっている。そんな事務職員が、多いのではないでしょうか。

事務職員には、事務職員の悩みが

学校に１名の配置、そこから様々な問題が生じてきます。事務職員は、学校で孤立しがちです。職務が、多様です。新規採用者や局間交流者は、ます、仕事を覚えなくてはいけません。近隣の学校や事務職員会、区市教育委員会、さらに労働組合（職員団体）に支援を求めていく必要があります。一人で、悩み事を抱え込むのではなく、相談相手を見つけることが必要です。住めば都で、慣れてしまえば、一人職場も「快適」だと思えてきます。